

第837回 平和祈念式「校長の話」

令和3年4月9日

みなさん、おはようございます。今日は、本年度最初の平和祈念式で、837回目となります。

今日の祈念式には、6年生の皆さんが献花用の花を持ってきてくれました。ありがとうございます。

新しく転入してきたお友達もいますし、初めての先生方もいらっしゃいます。校長先生も初めてです。ですから今日は、城山小の平和祈念式がどのようなものかをお話します。「聞いたことあるよ。知っているよ」という人も多いでしょうが、確認の意味でしっかり聴いてください。

今から約80年前、日本は世界を相手に戦争をしていました。多くの人が亡くなり、多くの人々が傷つき、家も焼かれました。その戦争も終わろうとする頃、日本に2発の原子爆弾が落とされました。広島市と長崎市です。

この原子爆弾は、たった一発で何万という人を殺し、建物を破壊する恐ろしい爆弾でした。76年前の昭和20年（1945年）8月9日午前11時2分、この長崎の松山町の上空で爆発し、7万人以上の人々が亡くなり、7万人以上の人々が傷つきました。

松山から近かった城山小学校でも28人の先生方、庁務員さん3名が亡くなり、当時、城山小に通っていた子どもたち1500人のうち、1400名以上が亡くなりました。一度にたくさんの方が亡くなったため、学校の運動場では、多くの亡くなられた方の御遺体を焼かなければなりませんでした。

戦争が終わっても、学校は壊れたまま、隣の稲佐小学校の教室を借りて授業が始められたそうです。

やがて、生き残った方や遠くに避難して戻って来た人たちによって、長崎が復興していきました。2年半後には城山小学校の校舎も作り替えられ、授業を再開することができるようになりました。でも、学校の校庭で遊んでいると、時折どなたかの骨が見つかったり、原爆で溶けたガラス瓶が見つかったりしていたそうです。

今後こんな悲しい出来事が二度と起こらないようにという思いから、原爆投下から6年後の昭和26年8月8日に、少年平和像が完成しました。校門の前にある少年の像です。

少年平和像ができた翌日の「8月9日」から平和祈念式が始まり、毎月9日に行うようになりました。1年間に12回行ってきて、今年で70年目、今日で第837回を迎えることとなります。

多くの亡くなられた方々の魂を納める場所として、原爆殉難者の碑も運動場にあります。平和祈念式では、この原爆殉難者の碑に対して、安らかにお眠りくださいという気持ちをこめて黙祷^{もくとう}をします。目をつぶり、首から上を前に倒して願うこういう仕草です。

そして、少年平和像へは、「今後、原子爆弾のような核兵器を使わせません」「自分たちも平和になるよう行動します」という誓いの気持ちで深くお辞儀をします。これを拝礼^{はいれい}といいます。

また、この平和祈念式では、「子らのみ魂^{たま}よ」という歌を歌います。

この歌は、昭和26年（1951年）、少年平和像と同じ年、今から70年前に完成した歌です。その後、城山小学校で平和を願い、平和を守ることを誓う気持ちを込めて歌い継がれてきました。

今、この学校に通っている皆さんにも、先輩方の思いを受け継ぎ、「平和は城山から」と、心を込めて歌ってもらいたいと思っています。

特に今日は、今年度初めての祈念式です。新しいお友達や先生方、今日は参加していない、昨日入学したばかりの1年生にも、皆さんの歌声と思いを届けてください。

祈念式の後半は、各学年に分かれて、平和遺構や被爆遺構の前で、亡くなられた方のために花を捧げる献花^{けんか}を行います。そして、平和な世界にしていくには、どんなふうに行動したらいいかを考える時間をとります。

以上、平和祈念式について話をしてきましたが、最後にもう一つだけ。

内田伯（つかさ）さんという方のお話です。内田さんは、平和発信協議会や原爆殉難者慰霊会の会長を長年務められていた方で、城山小の育友会会長も務められたことがありました。内田さんは、ちょうど1年前、4月6日の始業式の日、90歳でお亡くなりになりました。

その当時、被爆校舎が取り壊されることになっていましたが、被爆校舎を残し、平和記念館にしようと活動されました。おかげで、原爆の被害に遭った校舎の一部が残され、多くの方が訪れる平和記念館となりました。

内田さんの言葉を紹介して、私の話を終わりにしたいと思います。

それは、こんな言葉です。

「目から消え去るものは、心からも消え去る」

「目から消え去るものは、心からも消え去る」

被爆校舎を始めとした、様々な遺構（昔の人が残したもの）が消えていく、無くなっていくと、やがて人々の心からも戦争や平和への思いが薄れていくことになる。だから残さなくてはいけない、語り継いでいかなくてははいけないという願いの表れだと思います。

城山小学校で過ごす私たちには、平和を望む気持ちの「継承と発信」、そして「平和は城山から」という思いをもつ責任があることをみんなで確かめ、私の話を終わりたいと思います。